

進行非小細胞肺癌に対するペメトレキセド、または、タキサン系薬剤を含む 抗癌剤の治療効果や腎機能の推移に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2026 年 8 月 5 日 ～ 2027 年 8 月 31 日

〔研究課題〕

進行非小細胞肺癌に対するペメトレキセドを含むレジメン、または、タキサン系薬剤を含むレジメンを行った症例の治療効果や腎機能の推移を検討する後方視的研究

〔研究目的〕

腎機能が低下した方に対して、ペメトレキセドを含むレジメンとタキサン系薬剤を含むレジメンのどちらがより安全に使用できるのかを明らかにします。

〔研究意義〕

腎機能が低下した方の抗癌剤選択あるいは治療中止を判断する際の一助とします。

〔対象・研究方法〕

当院において 2019 年 1 月 1 日から 2026 年 6 月 30 日までの間、ペメトレキセドを含むレジメン、または、タキサン系薬剤を含む抗癌剤を行った進行非小細胞肺癌の患者様が対象です。該当患者様の年齢、性別、治療開始時の Performance Status(PS)、体重、BMI、喫煙歴、生存期間、治療成功期間、進行期(Stage)、治療内容、最終転帰(2026 年 6 月 30 日時点)、抗癌剤治療開始時および各コース実施時および最大悪化時の血液データ(血清クレアチニン値、シスタチン C)が調査項目です。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部内科学講座腫瘍内科

〔個人情報の取り扱い〕

本研究に携わる関係者は研究対象者の個人情報を厳格に保護します。対象者より情報の使用拒否の申し出があった場合はその情報は用いず破棄します。対応表は用いず診療(カルテ)番管理とすることで匿名化し、抽出したデータのみを取り扱うことで個人の特定ができないようにします。お亡くなりになった方の情報についても同様に取り扱い対象者が特定できないよう十分に配慮します。対応表を作成しないため、データ抽出後は情報を削除できません。対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：氏名 関 順彦 職名 教授
研究分担者：氏名 朝賀 玲奈 職名 大学院生
所属：帝京大学医学部内科学講座腫瘍内科
住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-1211(代表)